

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属:輸血検査研究班 提出日:平成 28 年 5 月 31 日 報告者:小木曾 美紀

内 訳	研究会 (行事番号: 160001020)
開催日	平成 28 年 5 月 21 日 (土)
時 間	開始: 15 時 30 分 終了: 17 時 30 分
場 所	名古屋市立大学 医学研究科・医学部研究棟 11 階 講義室 A
テーマ	輸血部門の危機回避と輸血検査の基礎 生涯教育履修点数 専門教科 <u>20</u> 点
司 会	氏 名: 片井 明子 施設名: 愛知医科大学病院
講 師	1. 中井 美千代 (中部労災病院) 2. 原田 康夫 (厚生連 豊田厚生病院) 3. 小木曾 美紀 (日進おりど病院)
内 容	<p>輸血部門の危機回避と輸血検査の基礎 をテーマとして、2 本立ての企画とした。1 つ目は、輸血部門のヒヤリ・ハット事例を共有しリスク回避のために必要なことについての解説を行い、2 つ目は、平成 28 年 2 月に発刊された「輸血・移植検査技術教本」に準じた輸血検査の基礎 『なぜ・何?』について解説を行った。</p> <p>1. 「輸血部門の危機回避 ～ヒヤリ・ハットの事例から学ぼう～」 輸血部門の過誤事例にはどのようなものがあるのか、具体的な事例を交えながら解説を行った。また過誤防止のための原因分析と防止策の考え方について解説を行った。</p> <p>2. 「血液型検査の基礎 『なぜ・何?』」 血液型検査は、なぜABO/RhD血液型検査を実施するのか? ABO血液型で異常反応が出現した場合、どのように考えるのか? RhD血液型検査でRhコントロールはなぜ必要なのか? ABO/RhD血液型検査の重要性について詳細な解説を行った。</p> <p>3. 「不規則抗体検査・交差適合試験の基礎 『なぜ・何?』」 臨床的意義のある抗体とは何か? 不規則抗体スクリーニングの意義について、抗原表について、消去法について、不規則抗体同定手順について、実際の不規則抗体同定までの手順を示しながら解説を行った。また交差適合試験については、目的や副試験の必要性や交差適合試験の限界について解説を行った。</p>

	普段ルーチンで輸血検査を行っていない会員にも参加いただき、多くの会員に輸血業務の医療安全と輸血検査の基礎について、理解いただけたと思われる。
参加者	総数 166 名 (愛臨技会員 151 名、県外会員 3 名、賛助会員 12 名)
後援など	特記なし

愛臨技学部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：平成 28 年 7 月 31 日 報告者：小木曾 美紀

行事種別	基礎講座	行事番号	基本コース 160002885 応用コース 160002896
開催日	平成 28 年 7 月 30 日 (土) 基本コース 平成 28 年 7 月 31 日 (日) 応用コース		
時間	基本コース 開始	14 時 00 分	終了 17 時 30 分
	応用コース 開始	9 時 00 分	終了 17 時 00 分
場所	名古屋市立大学医学部 基礎研究棟 4F 微生物実習室 (所在地 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1)		
テーマ	実技講習会 「輸血検査のテクニックを学び、現場で生かそう!!」		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司会	日進おりど病院 小木曾 美紀 技師		
講師	基本コース 名古屋掖済会病院 佐藤 仁美 技師 応用コース 愛知医科大学病院 片井 明子 技師		
内容	<p>基本コースは、佐藤 仁美技師を中心として輸血検査の基本操作、血液型検査、交差適合試験について実技講習を行った。参加者を 2 名～3 名の班に分け、各担当実務委員 1～2 名が班に付くことでわからないことはその場ですぐ質問できる体制をとった。輸血検査の経験が少ない方が多く参加されたので、手厚い指導が好評であった。</p> <p>応用コースは、片井 明子技師を中心として血液型検査、不規則抗体スクリーニング、紙上抗体同定、抗体解離試験と抗体同定ならびに症例グループディスカッションをおこなった。参加者を 3～4 名の班に分け各担当実務委員 1～2 名が班に付き実技指導を行った。グループディスカッションでは、班内で検査結果をもとに結果のまとめ、適合血の選択、患者の経過中で注意すべきこと、医師への報告方法の検討を行い、その後各班の代表者が発表を行った。輸血認定検査技師の取得を目指す方、スキルのステップアップを目指している方等が参加され、わからないことはその場ですぐ質問して理解していただいた。手技の確認、消去法、適合血の選択、医師への報告と現場に戻られてから実践で使用できる内容の実技講習会となった。</p>		
参加者	総数：88 名 (会員 82 名、非会員 名、賛助会員 名、学生 名、その他 県外 6 名)		
共催、後援など			

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：平成 28 年 12 月 1 日 報告者：小木曾 美紀

行事種別	研究会	行事番号	160018826
開催日	平成 28 年 11 月 12 日 (土)		
時間	開始	15 時 00 分	終了 17 時 30 分
場所	JA 愛知厚生連豊田厚生病院 2 階講義室 (所在地 豊田市浄水町伊保原 500-1)		
テーマ	症例検討会「さあ困った！ こんな時どうする？」		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司会	春日井市民病院 神野 洋彰 技師		
講師	<p>症例 1：「血液型が判定できない！」 社会医療法人宏潤会 大同病院 榎原 千絵美 技師</p> <p>症例 2：「輸血しても血小板数が上がらない！」 独立行政法人地域医療機能推進機構 中京病院 水平 晶子 技師</p> <p>症例 3：「妊婦の抗体スクリーニングが陽性！」 藤田保健衛生大学病院 杉浦 緑 技師</p>		
内容	<p>実際に経験した 3 症例について、各講師から事例紹介及びその後の輸血検査を進めていく上で、原因やどの検査方法・試薬・血液製剤を選択するべきかの選択肢を提示し、参加者は、事前に配布された 4 種類のカラーカードから提示された選択肢の色を選びカードを上げ、司会者は、参加者をあてて、その選択肢を選んだ理由を述べてもらうという参加者が意見を出し合い、ディスカッションを行いながら進めていく参加型の症例検討会を行った。また研究会終了後に参加者全員へアンケートを行った。</p> <p>症例 1 『血液型が判定できない！』は、健診検体で実施した血液型が直後判定で判定保留となったため、D 陰性確認試験を実施したが Rh コントロールが陽性となった症例。その後の対応、追加検査、原因について考えディスカッションを行った。</p> <p>症例 2 『輸血しても血小板数が上がらない！』は、AML 治療中で血小板数低値の患者に血小板輸血を行ったが、血小板数が上がらなかった症例。その後の対応、追加検査、選択すべき血液製剤について考えディスカッションを行った。</p> <p>症例 3 『妊婦の抗体スクリーニングが陽性！』は、妊婦の抗体スクリーニングが陽性となった症例。抗体同定、抗体価測定方法について考えディスカッションを行った。</p> <p>各選択肢を提示することで、様々な考え方の中からどのように進めていくべきか、また医師への説明をどのタイミングでどのように行うかを共に考え、優先順位を含め検討することができた。実症例に基づく内容のため、技師役、医師役等班員が行いリアリティのある演出をした。同じような症例を経験したことのある参加者もみえ、活発な意見交換が行われ、当初の目的である参加型の研究会とすることができた。</p>		
参加者	総数：80 名 (会員 75 名、非会員 名、賛助会員 5 名、学生 名、その他 県外 名)		
共催、後援など			

愛臨技学部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：平成 28 年 12 月 25 日 報告者：小木曾 美紀

行事種別	講演会	行事番号	160022775	
開催日	平成 28 年 12 月 17 日 (土)			
時間	開始	15 時 0 0 分	終了	17 時 30 分
場所	名古屋第一赤十字病院 パースセンター (所在地 名古屋市中村区道下町 3 丁目 35 番地)			
テーマ	輸血副作用について考えよう！！			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	日進おりど病院 小木曾 美紀 技師			
講師	<p>講演 1：「輸血副作用とは？」 知多厚生病院 山本 喜之 技師</p> <p>講演 2：「ベッドサイドでのモニタリングについて」 藤田保健衛生大学病院 高木 里枝 看護師</p> <p>特別講演：「ヘモビジランスについて」 愛知医科大学病院 加藤 栄史 教授</p>			
内容	<p>輸血副作用をテーマとして、臨床検査技師、看護師、医師のそれぞれの立場から副作用についてアプローチすることで、輸血医療の安全対策について考える機会とした。また講演会終了後に参加者全員へアンケートを行った。</p> <p>講演 1 『輸血副作用とは？』は、輸血に伴う副作用の概要について症状項目や診断について解説を行った。そして輸血管理部門が行うべきこと、また発生時の検査項目について説明して頂いた。臨床検査技師の立場から輸血副作用について知っておくべき基礎知識について詳細に解説していただいた。</p> <p>講演 2 『ベッドサイドでのモニタリングについて』は、藤田保健衛生大学病院での輸血に携わるまでの看護師の教育システムについて説明頂いた。また実際の看護師業務について、製剤の取り寄せから輸血実施までの過程と注意すべきポイントについて実際にあったインシデント症例を交えながら具体的に説明いただいた。そして副作用発生時の対応、支援体制について説明いただき、認定輸血看護師の方から看護師の業務内容、輸血療法への取り組みについて具体的な話を聞くことができ、非常に有意義な内容であった。</p> <p>特別講演『ヘモビジランスについて』は、ヘモビジランス (Haemovigilance : 血液安全監視) とはなにか、目的について基本的な部分から解説していただき、日本赤十字社へ報告のあった副作用についてまとめ、その原因を分析評価することで、保存前白血球除去の導入や初流血除去が導入されていった経緯についての解説とその後の評価について説明して頂いた。またアレルギー副作用対策として洗浄血小板が新たに認可されたことについて解説して頂いた。最後に将来のヘモビジランスについてトレーサビリティを確保したシステム作りについて説明頂いた。ヘモビジランスを取り纏めている加藤教授から直接講演を頂き、我々が行っている副作用報告がどのように活かされているのかまた今後の展望について理解することができた。</p>			
参加者	総数：83 名 (会員 72 名、賛助会員 8 名、その他 2 名、県外 1 名)			
共催、後援など				

愛臨技學術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：平成 29 年 2 月 23 日 報告者：小木曾 美紀

行事種別	研究会	行事番号	160029907	
開催日	平成 29 年 2 月 11 日 (土)			
時間	開始	15 時 0 0 分	終了	17 時 30 分
場所	名古屋セントラル病院 2 階 多目的ホール (所在地 名古屋市中村区太閤 3 丁目 7 番 7 号)			
テーマ	輸血検査の環境について見直そう！			
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点			
司会	名古屋市立大学病院 小池 史泰 技師			
講師	<p>講演 1：「平成 28 年度精度管理調査報告」 春日井市民病院 神野 洋彰 技師</p> <p>講演 2：「抗体価測定とは？」 株式会社 カイノス 西野 主真 氏</p> <p>講演 3：「新しくなった I & A (輸血機能評価制度) について」 愛知医科大学病院 安藤 高宣 技師</p>			
内容	<p>「輸血検査の環境について見直そう！」をテーマとして、平成 28 年度精度管理調査結果報告とそこから見えた輸血検査の環境整備、抗体価測定結果を施設内で統一化するために必要な環境整備、輸血機能評価制度からみた輸血検査および管理業務体制の環境整備を講演いただき、自施設の輸血検査環境を今一度見直す機会とした。また研究会終了後に参加者全員へアンケートを行った。</p> <p>講演 1「平成 28 年度精度管理調査報告」は、精度管理調査内容と結果および評価方法について説明し、結果分析について詳細に解説した。輸血検査方法の見直しが必要な施設へその理由とともに改善を促した。また文章設問では、回答および結果分析と問題の解説を行った。</p> <p>講演 2「抗体価測定とは？」は、精度管理調査でも抗体価測定項目があるため、抗体価測定の目的と方法及び検査時の注意点と結果の解釈について説明して頂いた。また IgM と IgG の鑑別方法とどのような時に鑑別が必要となるのか、及び結果解釈について説明して頂いた。また施設内で技師による抗体価結果の差を是正するため、凝集反応の目合わせ検体の濃度調製方法について解説いただいた。</p> <p>講演 3「新しくなった I & A (輸血機能評価制度) について」は、2016 年に I&A が新 I&A 輸血機能評価制度として開始された。今回、新 I&A について旧体制との違いや認定までの流れについて解説していただいた。また輸血機能評価の視察チェックリスト項目と認定基準については、カテゴリー分類と確認事項を中心に詳細に解説して頂いた。判断基準については透明性を担保した内容となった。最後に東海支部会の現状と課題について説明頂き、受審から認定までの流れ及び費用についてまたわかりやすく説明して頂き、新 I & A 体制について理解することができた。</p> <p>参加者から多くの質問があり、活発な討議が行われ有意義な研究会となった。</p>			
参加者	総数：81 名 (会員 70 名、賛助会員 11 名)			
共催、後援など				